



## 今までと、これからの医師の道

脳神経センター大田記念病院 脳神経内科 庵谷 紘美

脳神経センター大田記念病院脳神経内科専攻医の庵谷紘美と申します。脳神経内科は1年程度の新米の私ですが実は医師9年目になります。専攻医の主張に出てくるにはもはや初々しさもない学年だと思いかと思います。もちろん大学卒業後から休むことなく働いて丸8年になります。テーマは何でもいいとのことなので、医師9年目がなぜ専攻医の主張に出ているのかをお話させていただこうと思います。

岡山県出身の私は大分大学に進学し6年間を過ごしました。4年生時の研究室配属で脳神経内科と出会い、興味を持ちました。大学卒業後は岡山大学病院で初期研修を行い、初期研修2年目の6月までは内科になるものだと思っていました。そう、初期研修2年目の6月まで自分も周りの方もそう思っていたのです。初期研修2年目の6月に回った救急科研修で、救急車が嫌で目の前の意識がない患者に何をしていいかわからず、「このままじゃこの先も何もできない医師になってしまう気がする」という思いが芽生えたのです。その気持ちが強くなり、当時私たちの学年は新内科専攻医制度の初年度でまさに過渡期であったのですが、岡山大学救命救急科教授の「救急をしてから内科に行ってもいい」という言葉を信じて、内科に行かず、救急科専攻医としての3年目をスタートさせたのでした。かなり遅いタイミングでの進路変更で、多くの周りの先生方に迷惑をお掛けしたことはこの場を借りて謝罪させていただきます。が、「また内科に戻ってきます」という私の言葉は誰にも信じてもらえてなかったと思います。いろいろあって始まった救急科研修も最初は2年くらいで内科に戻ろうかと考えていました。始めてみ

ると救急分野は面白く3年研修を行いました。研修プログラムが終わる救急科専攻医3年目に約束通り内科に戻ることを教授に伝えたところ「言い出したことはやり遂げなさい」と周りの先生も含めて快く送り出してくださり、医師6年目に内科専攻医として新たな道をスタートさせたのです。内科研修中も救急科専門医、集中治療専門医を取得しながら、J-OSLARで指導医の先生を困らせながら去年無事に3年の内科研修を終えて、今年内科専門医試験を受験し、この記事を書いている現在結果はまだ分かっていませんが、この記事が世に出されるころには合格をしているはず、だと思います。

そんな私は現在、大田記念病院で脳神経内科の医師として働いています。そして、新たに脳血管内治療にも携わるようになりました。同級生が1つの分野で経験を積み上げているのとは対照的に私の医師人生はいつも新しい分野ばかりで、当時何がしたいのか、と散々言われてきましたが、今はいろんな経験をしてきたことが実を結び評価いただけるようになってきたように思います。

私の将来は正直まだ明確ではなくいろいろ試行錯誤中ですが、私が進路に悩んでいた時に大学時代の恩師から言われた「何もしない時にするのは後悔、何かした時にするのは反省だ」という言葉を胸に後悔の無いように人生を歩んで行きたいと思います。

今は私のやりたいことを快くやらせてくれる心の広い大田記念病院で自分の将来の展望を考えながら、打撃器とカテーテルを操り、日々全力で診療に励んでいます。